



生き方の指導を目指した進路指導
(双方向衛星通信を活用)

総合教育センターだより

◇— も く じ —◇

- ・「情報の海」へ…………… 1
- ・21世紀目前…………… 1
- ・研修講座アンケートから…………… 2
- ・受講者の感想…………… 2
- ・秋田県教育研究発表会の案内…………… 3
- ・冬のプラネタリウム教室の案内…………… 3



観察実験指導力向上講座 (小学校・東部地区)

平成10年12月17日発行

秋田県総合教育センター

〒010-0101 南秋田郡天王町天王字追分西29番地の76

TEL 018 (873) 7200 (代表)

FAX 018 (873) 7201

すこやか電話相談 018 (873) 7206

インターネット接続 018 (872) 1065

学習指導案
レファレンスサービス 018 (873) 7210 (FAX)

パソコン通信 018 (873) 7207

「情報の海」へ



次長鈴木進

現在は高度情報通信社会とされています。こうした時代に生きる人々にとって、溢れる情報の中から真に必要な情報を主体的に選択し、生活の向上に役立てて適切に対応していく能力「情報活用能力」を早い段階から身につけておく必要があります。

次代を担う子どもたちに対する情報教育は極めて重要な課題の一つです。電話やテレビの普及する以前は、学校が最も情報化の進んだ施設であり、教師は知識、技術において、子どもたちや地域をリードしてきました。しかし、今の子どもたちは日常生活の中で、デジタル化された情報に接する機会が増え、今や大人たちよりも情報を操る能力に長けている場合さえあります。それゆえ、まず指導者としての教師自身がより積極的に情報教育に取り組みなければなりません。

当センターでは、4月28日から、教育情報通信ネットワーク「花まるっ教育ネットkna」で情報発信をしております。ホームページのアクセス数は11月30日現在47,194回と、順調に運用されています。また、

センターを經由してインターネットに接続するための電話回線は23回線で、土、日も接続され11月30日現在34,499回と日を追って急増しており、現場の先生たちの興味、関心の高まりが見えます。「ソフトウェアライブラリーセンター」と併せて一層の活用が待たれます。

学校は、知識や知恵の単なる伝承機関ではなく、生徒一人ひとりの人間性を尊重し、新しいアイデアを創造し、他の人と協調しながら多情報化社会を「生きる力」と、「内容知」を踏まえながら「方法知」を学ぶ場としての役割を果たしていくことが必要です。子どもたちに、自ら情報を探し、選び、蓄え、加工し、受発信する能力を培わせる教育が求められています。教師が進んで情報の海に身を投ずる時がきたのです。当センターの職員は、情報化の進展についてはその「光と影」の部分をも十分認識しながら、教師に必要な質の高い役立つ情報を提供するために、日々研鑽し、時代の変化に対応した情報教育の推進に努力しているところであります。

21世紀目前



教職研修部長石塚寛

平成8年には「21世紀を展望した我が国の教育改革の在り方について」の第一次答申が、同9年には、第二次答申が出されました。当センターでは、小・中学校や県立学校の新任教頭研修等に教育情報通信ネットワークの活用に関する研修を組み込むなど、これらの答申等を踏まえた研修講座の編成に取り組んでいます。

その中から二つの講座の実践状況を紹介いたします。
教職経験者（10年経過）研修講座

この講座は、所属校研修2日間を含め、7日間の日程で行われていますが、今年度は新たに、社会貢献活動体験研修（2日間）を組み込みました。この研修は、小・中・高・特殊教育学校の教員が、校種を越え、それぞれの地域の希望する施設で、福祉ボランティア等を体験するものです。今年度は400余名の教員が特別養護老人ホーム、図書館、営林署等約80の施設で研修に励みました。教職員として、幅広い知見を身に付け、社会の一員としての自覚を高め、社会貢献の精神を培うとともに、自校の教育活動等を見直すよい機会になったとする意見が多く聞かれました。

学校改善総合講座

この講座は、近年の教育改革の動向を探り、各学校の実態を踏まえて変化の時代に対応した学校教育の在り方を研修するもので、今年度新たに設けたものです。「『生きる力』をはぐくむ学校教育」をテーマとし、100余名の教員の参加を得て行いました。まず、小・中・高・特殊教育学校の4人の校長先生をシンポジストとしたシンポジウム、次いで、教育課程、校内研修、学習指導、生徒指導の4分野に分かれての協議、最後に横山利弘関西学院大学教授による講話という内容です。「あいまいな概念がきちんと規定できた」、「1日がとても短く感じられた程、内容が充実していた」、「他校の実践、講話等、明日の実践に向けて大いに参考となった」等の感想をいただきました。

21世紀を目前に、教育改革プログラム、教育課程審議会の答申等が次々と出されるなか、平成14年度から実施される完全学校週5日制の下で、各学校がゆとりのある教育活動を展開し、子どもたちに真に「生きる力」をはぐくむための一層の工夫や努力を期待するものであります。

研修講座アンケートから

平成11年度の研修講座の編成にあたり、研修講座に対する各学校の意向を把握し、受講者のニーズに十分こたえられるものにするため、次の3項目について調査を実施しました。回収率は99.3%でした。御協力有り難うございました。(割合は、該当校数/全回答校数(533)=%で示す)

- ① 専門講座(C講座)の実施状況について
- ② 専門講座(C講座)で新設してほしい講座
- ③ 総合教育センターの研修講座に対する意見、要望等

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 「学校のニーズに合っていない講座」としていくつかあげられたが、その割合はほとんどが1%を切っている。 実施時期や日数については、校種によって差異がみられるが、一学期に実施している講座の検討が望まれている。 ② 新設希望の多い講座としては、もっとも多いのが「総合的な学習」の45.3%であり、次いで「国際理解教育」、「環境教育」、「カウンセリング研修」となっている。全部で506講座であった。 ③ 研修講座の改善に関する意見や要望は相当数あるが、そのいくつかをあげてみたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ長期休業中に開講してほしい。 ・生徒指導や教育相談の講座は、6~10月に多いが、忙しい時期なので、他の月に実施してほしい。 ・教科指導の研修では中高連携を進めてほしい。 ・地域性を考えた移動講座を増やしてほしい。 ・事務職員の研修講座を増やしてほしい。 ・公開講座は、教員以外にも対象を広げるとよい。 ・今以上に講義、演習、協議の組み合わせをよくして、教師の実践的指導力を高める研修にしてほしい。 ・講座の内容がすぐ分かるネーミングがほしい。 ・できれば今回のような調査を毎年実施し、受講者の声を講座に反映してほしい。 |
|--|---|

受講者の感想

社会貢献活動体験研修

秋田工業高等学校 教諭 杉田道子

視聴覚障害者と点字図書館については、これまでの私は言葉や知識だけの浅い理解であった。何事においても、自ら体験しないことには深い理解を得られないことを痛感した。

驚かされたのは、音訳技術の奥深さである。「正しく、聞きよく、速やかに」というモットーのもと、ボランティアの方々は自分自身の表現ではなく、あくまでも待っている視聴覚障害者の立場になって音訳作業を行うという。耳から情報を得る方々が自分なりの解釈ができるよう、健常者である我々が勝手な解釈を押し付けてはならないのである。生徒に自分の考えを押し付けてしまうことが多い私にとって戒めの機会となった。社会奉仕は、人のために何かやろうというだけでなく、自分のためにもやるという意気込みが必要である。探す気になれば、生き甲斐となり得る社会奉仕活動は多い。この研修により、自分自身も一生かけて社会貢献すべく活動ができるのではないかと、自分の将来の生き方を楽しみに感じられるようになった。職員の方々の丁寧な対応と仕事にかける熱意に心を打たれた。研修内容も意義深かった。10年を経過した教員にとっては、自らを顧みるのにふさわしい研修である。是非、継続して我々を受け入れていただきたい。

養護教諭病院体験研修

大曲市立角間川小学校 養護教諭 佐藤蘭美

この病院体験研修を終えて感じたことは、患者さんに対する対応のすばらしさである。医師も看護婦も、そして職員の方々も患者さんと同じ視線に立って医療を行っている。なんとあたたかみのある病院であろう。見学した外科の外来では、診察を待つ人があふれていた。しかし、次から次へと診察室へ入ってくる患者さんに決して疲れた顔を見せず、どんな時でもどんな人にも笑顔で対応する。まさに飛び回るほどの忙しさである。患者さんが「看護婦さん忙しくて大変だな」というと「忙しいほうがやりがいがあるもの」と笑って答えている。患者さんはそんな医師や看護婦に絶大な信頼を寄せているように思えた。保健室において、自分が子どもたちに接する態度はどうだろうか。忙しいからといって子どもの目も見ず、ケガの処置だけに終わっているのではないか。話をしっかりと聞いてあげているだろうか。日頃の自分自身を振り返り、恥ずかしくなる思いであった。

講義においては、最新の医療について説明を受けたり、病院側から学校への率直な意見を伺ったり、また普段の執務で疑問に思っていたことを直接質問できたりと、大変有意義であった。できるものなら是非、もう一度このような機会を与えていただきたいものだと感じた一日であった。

秋田県総合教育センター主催

平成10年度
第 13 回

秋田県教育研究発表会

期日 平成11年2月9日(火)～10日(水)

会場 秋田県総合教育センター

記念講演

演題 「オリンピックと私」

北野建設(株) 北野文芸座支配人
長野県教育委員会 教育委員

千葉弘子氏



日程

| | | | | | | | |
|-----------|--------|------------|-------|-------|--------------|--------|------------------|
| 9日 (火) | | 10:00 | 10:50 | 11:00 | 12:20 | 13:30 | 16:00 |
| | 受 付 | 教育研究奨励賞授賞式 | | | 各研修部 研究発表 | 昼 食 | 分野別研究発表 (分科会) |
| | | 教育研究発表会開会式 | | | | | |
| | | 各研修部研究概要説明 | | | | | |

| | | | | | |
|------------|--------|------------------|-------|-------|--------|
| 10日 (水) | | 9:30 | 12:00 | 13:10 | 15:00 |
| | 受 付 | 分野別研究発表 (分科会) | | | 昼 食 |

☆冬のプラネタリウム教室☆

冬休み中の平成11年1月6日(水)、8日(金)に『冬のプラネタリウム教室』を開催します。

秋田の冬は、星空の見える日が少ないのですが、オリオン座が輝き、星空の魅力が一段と増す季節です。プラネタリウムで、冬の星空をたっぷりご鑑賞ください。放映の時間は右のとおりです。申し込みは必要ありません。皆様のおいでをお待ちしております。各学校では児童生徒や保護者の方々に紹介して下さるようお願いいたします。

なお、夏休み中の8月19日(水)、20日(木)の2日間、小・中学生と保護者を対象に実施された『星の観察教室』には、183名もの参加をいただき、ありがとうございました。

| | | |
|------|---------------|-------------------|
| 開催日 | 1月6日(水)と8日(金) | |
| 開催時間 | 1回目 | 午前 10:00～11:00 |
| | 2回目 | 午前 11:15～12:15 |